

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 うち  
 ① 屋内 ② 離宮 ③ 宮中 ④ 境内
- 2 ひま  
 ① すき間 ② ふだん ③ 暗闇 ④ 遠い所
- 3 うへ  
 ① 主人 ② 御子 ③ 天皇 ④ 身分の高い人
- 4 よのなか  
 ① 言葉の意味 ② ものの道理 ③ 身分の程度 ④ 男女の仲
- 5 せうそこ  
 ① うわさ ② 贈り物 ③ 手紙 ④ 様子

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 6 帝よりはじめ奉りて、大臣公卿みな悉く移ろひ給ひぬ。世に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさに残りをらむ。(方丈記)  
 (訳) 天皇をはじめといたして、大臣公卿全員(福原京に)移りなされた。朝廷に仕える身分の人は、いつたいだれが一人でも「」に残っているようか。  
 ① 故郷 ② 宮中 ③ 古都 ④ 自邸
- 7 御方しも、受領の妻にて品定まりておはしまさむよ。(源氏物語)  
 (訳) よりよってお嬢様が、受領の妻として「」が定まってしまうだろうよ。  
 ① 品位 ② 夫 ③ 運命 ④ 身分
- 8 鶴の大臣殿は、童名たづ君なり。鶴を飼ひ給ひける故にと申すは、僻事なり。(徒然草)  
 (訳) 鶴の大臣殿は、幼名はたづ君である。鶴をお飼ひになつていたからと申すのは、「」である。  
 ① 本当 ② 失礼 ③ うわさ ④ 間違い
- 9 門さしつ。死ぬるなりけり。消息いひ入るれど、なにかひなし。(大和物語)  
 (訳) (季繩の少将の家は)門を閉じていた。(季繩は)死んだのだ。 (公忠は)「」(して来意)を告げたけれども、なんの意味もない。  
 ① 確認 ② 伝言 ③ 訪問 ④ 連絡
- 10 世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くはみなそらごとなり。(徒然草)  
 (訳) 世間で語り伝えていることは、真実はつまらないのであるうか、多くはみな「」である。  
 ① 嘘 ② うわさ ③ 事実 ④ 無駄
- 11 よろづのとがあらじと思はば、何事にもまことありて、人を分かず、うやうやしく、言葉少なからんにはしかじ。(徒然草)  
 (訳) すべての「」をなくしたいと思うのならば、何事にも誠意があつて、人を分け隔てず、礼儀正しく、口数が少ないようなのにまさるものはない。  
 ① 敵 ② 争い ③ 欠点 ④ 原因
- 12 あまたあらむ中にも、こころばへ見てぞ率てありかまほしき。(枕草子)  
 (訳) (お供の者は)たくさんいるような従者の中でも、「」を見て連れて回りたいものだ。  
 ① 性格 ② 本心 ③ 心遣い ④ 容貌
- 13 長き夜をひとり明かし、遠き雲居を思ひやり、浅茅が宿に昔を偲ぶこそ、色好むとは言はめ。(徒然草)  
 (訳) (恋に破れて)長い夜をひとりで明かし、はるか「」を想像し、茅の茂る荒れ果てた家で昔を懐かしむことこそ、恋の情趣を解すると言えよう。  
 ① 天上 ② 昔 ③ 遠く離れた所 ④ 都
- 14 え参らぬ由のかしこまり申し給へり。(源氏物語)  
 (訳) (大臣は宮のもとに)参上できないこと「」を申し上げなされた。  
 ① 事情 ② 理由 ③ 不満 ④ お詫び
- 15 罪のかぎり果てぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く。(竹取物語)  
 (訳) (かくや姫の)罪の「」が償われたので、こうして(月から)迎えに来たのを、翁は泣いて嘆く。  
 ① 根本 ② すべて ③ いくつか ④ 最期

